

<スポット> 国際フロンティア産業メッセ 2017



LPG車と自社スタンド設置で 「企業価値の向上」を

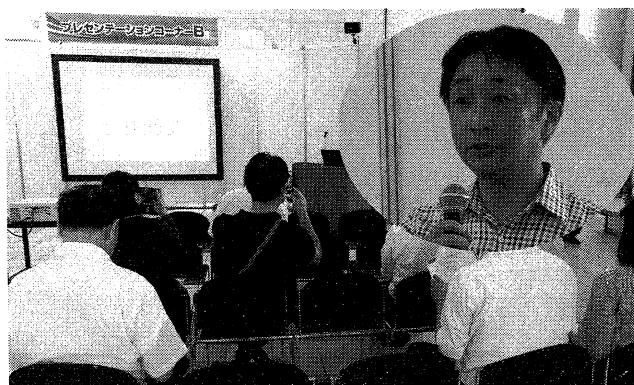
カグラベーパーテックが優位性PR

日産が、フルモデルチェンジを行った「2代目リーフ」が6日に公開され、連続航続可能距離が400キロまで延びたことなどで注目を集めている。現状、タクシー車両の主流はLPGで、今年10月に発売されるトヨタ「ジャパンタクシー」もLPGハイブリッド機構だが、昨今、ガソリンやHV、EVの車両も増えつつある。災害に強い「最後の陸上公共交通機関」として、車両や燃料について「改めて考える」必要があるのではないか。(鈴木)

西日本最大級の産業総合展示会「国際フロンティア産業メッセ2017」が7、8の両日、神戸市中央区の神戸国際展示場で開催され、ガススタンドメーカーのカグラベーパーテック（玉井健一社長、本社・兵庫県尼崎市）が、「LPG自動車導入による経費削減事例」をVTRで紹介するとともに、簡易オートガススタンドの導入事例をパネル展示した。LPG車導入については交通運輸産業従事者よりも一般来場者の方が興味を示すことが多いようで、LPGの特徴や運用方法などをスタッフに尋ねる場面も散見された。簡易オートガススタンドは、災対バルク設置補助金の対象となっており、今年度はタクシー事業者が補助制度を活用して4件導入、助成を受けない導入も、他産業含めて6件となっているようだ。

カグラベーパーテックの宮寺保如・新規事業部長（写真）は、「LPG自動車導入による経費削減事例紹介および自家用スタンド保有によるBCP対策」と題して講演。LPGを「全国約半分の2400万世帯、国土面積95%で使用されている『災害に強い持ち運びできるモバイルエネルギー』」と説明。

「個別供給・分散型エネルギー」であり、東日本大震災時には「概ね3週間で全面復旧を果たした」等、災害対応能力に長けている点をアピールした。また、ガソリンに比べリッター単価が75円（60%）安いことから、「燃料経費削減＝販売管理費削減」と説明。仮に「年間540万円の経費削減」につながれば「計上利益率1%の企業であれば、毎年5億4000



万円の売上を続けることと同意」として、業務用車両におけるLPG車の導入（および改造）が経営コストの削減に大きく寄与する——と提案した。

また、併せて自家用LPGスタンド（オートコンポ）を社内に設置することで、①BCP（有事における事業の継続計画）対策②地域のエネルギー供給拠点としての企業イメージ向上——の2点のメリットが得られ、こうした安心感がCSR（企業の社会的責任）の視点からも「企業価値の向上」につながると紹介した。

近年、特に近畿業界では、慢性的な需要の減少から「流し営業」から「法人契約（顧客営業）」へと営業方針を転換する事業者の存在も少なからず耳にする。ただし、その際には、顧客から事業者（企業）に対する信頼感や企業価値も大きな判断指標となるだろう。今後、タクシーのあり方が大きく変わるとしても、「公共交通機関の運営事業者」の名に恥じない設備投資、社会的責務を果たすことが求められるのではないだろうか——。